

肯定的な回答の多かった項目

児童

項目	とても思う・思う
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	94.7%
先生に注意されたことは、理解できる。	93.1%
先生は、課題について自分で考えたり、友だちと考えたりする時間を授業の中…	92.6%
学校行事は楽しい。	91.0%
先生は、タブレットを使った授業をしている。	87.9%

保護者

項目	とても思う・思う
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる。	90.7%
学校行事は、子どもにとって楽しい。	90.0%
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	89.1%
本校は、メールやホームページ、便りなどで保護者に情報を提供していた。	88.5%
3プロジェクト（学習・労作・読書）は、子どもにとってよい取り組みである。	85.8%

地域

項目	とても思う・思う
3プロジェクト（学習・労作・読書）は、子どもにとってよい取り組みである。	100%
学校からの情報発信（学校だよりやホームページなど）により、…	92.8%
学校行事は、充実している。	85.7%
本校は、「みんなが笑顔になる学校」が実践されている。	85.7%

○授業に対する評価が高く、課題をもって学習に取り組み、考えを共有していく授業の流れが身に付いてきたことがわかる。校内研究の成果が現れてきたといえる。また、振り返りを大切にしたい授業を展開してきたことで、自分の成長や良さにも目が向くようになってきた。

○生活指導では一方的に叱るのではなく、なぜそのルールが必要なのかを「考えさせる指導」を行うようにしていることが、数値となって現れてきた。ただ、否定的な回答の多かった項目を見ると、登下校を含め交通ルールでの課題が見られる。学校生活のきまりを含め、指導内容の徹底の仕方について検討していく必要がある。

○学校行事について肯定的な意見が児童、保護者共に高い。教員が、児童一人ひとりを大切にしたい指導を行い、児童に達成感や充実感を与えていることも大きいと考える。また、各行事で児童がめあてや目標を立て、振り返りを行うことで、達成感を味わっている児童が多くいると考える。

○配布物をペーパーレス化して、スグーを活用した。配布物が徹底できたことで、評価を得た。紙ベースが必要な方は取りに来るといったやり方は今後も継続していく。重要な配付物が徹底できたことで保護者からの評価を得た。

○3プロの評価が高く、保護者や地域の方に取り組みの重要性が認められている。継続して取り組んできた成果が現れている。また、学校側も教員への周知として3プロジェクトの進め方などを確認する機会を設定しプロジェクトを遂行したのも高評価につながったのではないかと考える。今後も学校・保護者・地域の方々と連携し、児童への学びが深まる機会を継続していく。次年度は、学校支援コーディネーターのシステムが変わるが、できるだけ今年度のよさが引き継がれていくようにしていく。今後のことも考え、講師謝礼等の面でも検討していく。

否定的回答の多かった項目

児童

項目	あまり思わない 思わないの合計
先生たちに相談できる。	28.6%
自分の生き方や将来のことについて、考える時間がある。	27.6%
キャリアパスポートに書いた項目について、考えて行動している。	25.4%

保護者

項目	あまり思わない 思わないの合計
本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。	26.4%
本校では、学び舎の目標「いい汗かこう」を実行している。	23.9%

地域

項目	あまり思わない 思わないの合計
通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている	32.1%
地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している。	27.0%
地域の人や施設を教育活動に生かしている。	25.0%

○タブレットの活用について、授業での活用が広まってきたのは確かだが、使用する子どもたちのモラルやデジタルシチズンシップについて身に付けていく必要がある。タブレットを何のために使うのかということや安全面や健康面など多方面からもう一度、学校で指導していく必要がある。ルールについては、児童自身に考えさせていく必要がある。さらに家庭にも学校でのルールを周知していく。家庭とも協力していく。

○キャリア未来デザイン教育が家庭や地域に広まっていない。周知徹底していく必要がある。今年度、学期に一度キャリアパスポートを持ち帰り、家でコメントをいただくことにした。その際、保護者会や学校便り等でもお知らせをしてみたが、周知徹底まで行かなかった。今後、活用方法を含め、キャリアパスポートやキャリア未来デザイン教育について周知していきたい。

○交通ルールに関しては、注意しても謝らないといった地域の方の意見もあり、交通ルールの徹底と善悪の判断をきちんとつける力を育てていく必要がある。地域や保護者の方々が気を付けて運転等をしていただいていることで大きな事故の報告はないが、広がって歩いたり、大きな声で話したり、道路の真ん中を歩いたり危険な状態である。家庭にも協力を仰ぎ指導していく必要がある。また、自転車の乗り方について、ヘルメットを着用していない、自転車で追いかけっこをしているなどの安全な乗り方についての指導が必要となっている。これについては、各家庭からも指導が必要という意見が出た。

保護者の意識を高めていくことも大切である。親が側にいなくても子どもを危険から守るために交通ルールを守らせる（危険な行動はとらせない）教育は最重要であると考えます。

○「自分の生き方や将来について考える時間がある」の質問に対して否定的な回答がおよそ3割で高いと見るのか妥当と見るのか決定付けるのは難しい。高学年（5・6年生）の11歳～12歳で自分の生き方や将来について検討するのはまだまだ容易ではないと感じる。しかし、教員・保護者・地域の方々との関わりの中で、児童の選択肢が少しでも増え、自身で将来について考えるきっかけづくりを提供できるように協力しサポート体制を継続していくことが望ましい。